

支援センター名	由岐町体験活動支援センター	
所在地	〒779-2195 徳島県海部郡由岐町西の地字西地50-1	
連絡先	Tel 0884-78-0007	Fax 0884-78-1050

事業の概要とポイント

中学校から総合的な学習の時間での学習活動の成果を発表する場として、子ども議会を企画して欲しいと依頼があったので、コーディネーターが町行政との交渉・調整に当たった。

由岐中学校では毎年総合的な学習の時間での学習成果を、三年生は学校祭(文化の部)において生徒たちが脚本し自らが演じて発表、二年生は将来就きたい仕事として町内の事業所の協力を得て職場体験を実施している。しかし、一年生には機会が無く目標を持たず意欲が沸かないまま総合学習の時間を過ごしてしまっているのが現状であるため、子ども議会を発表の場として、生徒たちが意欲的に取り組めるようになればと願っての依頼であった。

関係した学校・団体等の名称

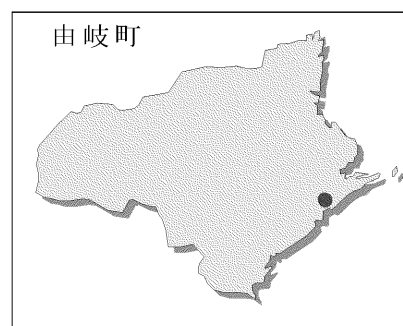
由岐町立由岐中学校一年生

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 由岐町 約3,500人

由岐町は、徳島県の南、海部郡の最東端に位置し、南東は太平洋を臨み、海岸線に沿って細長く広がった地形に八つの集落が点在、五つの漁港を有し、恵まれた海の幸を生かして自然に包まれ人々が集い憩う、真に住みよい町づくりを進めている。

「町づくりは人づくりから」を目標に由岐町の未来のために感性豊かで思いやりのある元気な“ゆきっ子”を育てるための施策を積極的に進めている。



企画から活動までの経緯

平成16年5月12日 由岐中学校校長から町民会議の運営委員会において、子ども議会を実施して欲しいとの要望がある。

- 6月 2日 定例課長会議において、中学生による子ども議会を実施したい旨を報告し、町役場管理職に了解を得られるよう説明する。
- 7月 5日 定例課長会議に、11月中に開催予定で進めていくので、議会の質疑があまり次第、日程調整等の協力を依頼する。
中学校に総合学習の取り組み課題「住みよい町から住みたい町へ」を確認し、質疑また提案等を10月中にまとめるように依頼する。
- 9月10日 中学校に総合学習の経過等について問い合わせ、議会の開催日についても行事等を踏まえて日程調整の打ち合わせをする。
- 10月 1日 定例課長会議に11月の日程に事前打ち合わせ会と、子ども議会の本番を組み入れて貰えるように依頼。
- 11月 1日 本番に向けて学校には資料等の整理を協力し、代表質問を取りまとめて事前打ち合わせ会を持って議会次第を作成する。
- 11月18日 由岐町役場三階議場において、子ども議会を開催。生徒28名、町側、町長以下12名、コーディネーターが参加した。

事例の展開内容（特色など）

町村合併を控えて、町が変わろうとしているこの時期に、将来自分たちが大人になった時、どんな町であって欲しいかというようなことを、総合的な学習の時間で「町づくり」について考えていくこととした。「住みよい町から住みたい町へ」をキーワードにし、班に分かれて各班ごとにテーマを決め取り組んで行くうち、班同士でテーマが入れ替わったり、班の構成が変わったりもした。調べ方は班それぞれで、インターネットで検索する班、役場の職員や町の人に聞き取りをする班、書物を調べる班と様々であった。今町で行われていることやなぜこうなっているのかなど疑問に思ったことを質疑し、町にこんなものがあればいいのにとか、今よりこうしたらいいのにとか、自分たちの思いが叶う為の提案として発表し、町管理職から答弁をいただいた。

企画・活動する上でのポイント、留意点など

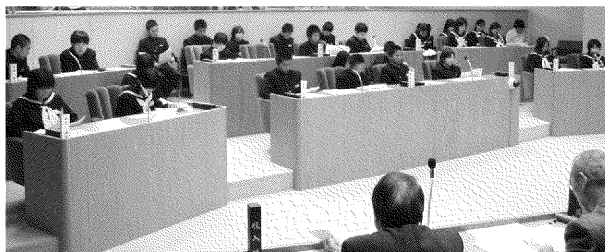
コーディネーターが学校でどのような「総合的な学習」を行っているか、流れや趣旨を理解し、学校サイドの課題がどこにあるのかを把握しておく必要がある。また、活動の実施に向けて生じる様々な課題を解決するには、学校、町双方で話し合いの場を設け、連絡を密にする必要がある。

評 価

学校での「総合的な学習」の時間に実施している学習活動は、生徒の学習の進み具合や考えの深まりなどによって、いろいろと変更が生じてくる。その際に町の協力が必要な場合、町の事情に詳しいコーディネーターの仲介によって、子どもたちの活動の場を設定することで、学校・町双方にメリットがある活動を創出できたと考える。

支援センターの紹介による体験学習により、子どもたちが町行政に対する理解を深めることができたと考える。また、町側も「生徒の柔軟な発想で、町の活性化を目指した具体的な提案があり今後の町行政に生かしたい」とのことであり、有意義な活動になったと思われる。

活動風景



執筆者職・氏名： 由岐町 社会教育主事 橋本 一晴